

# 立命館 災害復興支援室

# 瓦版

## かわらばん

【第20号(特別号)】 2013年10月11日発行

### 災害復興支援室 2013年度 前半の取り組みをご紹介します

災害復興支援室は、東日本大震災発生後、の2011年4月に設立以来、学園としての支援を行なう基盤整備、現地との調整の他、学生部等と連携し学生ボランティア派遣をサポートするなどの取り組みを進めてきました。2013年も研究分野での支援や、国際的な活動の展開など、ひきつづき様々な学生、教員が復興に貢献する取り組みを行なっています。

### 復興+R基金による 被災学生支援・学生の活動支援

震災後、学校法人立命館として設立した「立命館災害復興支援基金(復興+R基金)」では、これまで学部事務室、個人や法人等の寄付や、教職員のべ458名の個人の皆様からの給与引去りにより、計4597万円のご寄付を賜り、学費減免や既存の奨学金制度等で賄えない被災学生の経済支援を「被災学生支援金」や、学生・生徒・児童によるボランティア活動等への支援「復興活動支援金」の運営を行ってきました。被災学生支援金ではこれまでに計23名の学生を対象に経済支援を行い、2014年度の卒業・修了予定学生を最後に支援終了の目処が立っています。今年度からの寄付募集については、とりわけ学生生活への支援を目的とした復興活動支援金として、継続した寄付協力の呼びかけを行っています。

### 学生による 復興支援の取り組み

学生部・サービスラーニングセンター・学部等を窓口、課外活動団体の派遣や他

大学・機関と連携した学生派遣の取り組みをサポートしています。  
『大船渡暮石海岸観光まつりへの課外活動団体派遣』5/2-6  
学生団体 Fusion of Gambit, R.D.C によるステージ企画への参加、被災エリアでの研修を実施。



夏期休暇中ボランティアバス運行  
・『大船渡夏祭りサポート便』8/2-8  
大船渡市開催の夏まつりおよび盛町七夕まつりの参加、サポートを実施。



・『いわて GINGA-NET 夏銀河 2013』9/3-10  
岩手県沿岸南部を中心とした地域において、仮設住宅でのお茶っこサロンや子どもの居場所支援、学習支援等を実施。



### 大学生・院生対象ボランティア バス「後方支援スタッフ派遣」

災害復興支援室では、中長期的な支援が求められる東北の被災地に向けて、学生を継続的に派遣する取り組みを検討し、サービスマンとは異なる位置づけで、「後方支援スタッフ」として学生を募集し、2011年12月から試験的に被災地への学生派遣を企画し、今日までに計20便のバスを運行しました。

第19便6/6-11 学生10名、教職員2名  
岩手県宮古市では「街なか復興市」の運営ボランティアとして企画のお手伝いを、岩手県大船渡市では被災地域の花壇整備等、また宮城県気仙沼市では現地視察および交流を実施。



第20便9/1-10 学生13名、教職員2名  
岩手県宮古市鉾ヶ崎地区において失われた街・模型復元プロジェクト「記憶の街ワークショップ in 鉾ヶ崎～模型の街に記憶を吹込む1週間～」に参加。



2013年度中は、今後クリスマス期間および春期休暇中のバス派遣を予定しています。

### 被災地との連携した取り組み

#### <大船渡市との連携>

2012年4月、立命館大学と大船渡市は災害復興にむけた連携協力に関する協定を締結し、「教育・研究、文化・スポーツを通じた復興支援」、「復興支援に関する大船渡市民等と立命館大学生との交流」、「災害復興を担う人材の育成」など、市と大学が協力し支援活動を推進しました。2013年5月は締結後1年を記念し、立命館大学衣笠キャンパスにて大船渡市長を招聘したフォーラムを開催し、大船渡市の現状や課題について共有する場を設けました。



### 教育・研究を通じた復興支援

立命館大学・APUを対象に、教育・研究を通じた被災地の復興と日本社会の再建への貢献・支援に寄与する研究プロジェクトの支援「東日本大震災に関する研究推進プログラム」を開始、2011・2012年度の2年にわたり助成を実施しました。

2013年度は、立命館大学研究推進高度化推進制度の研究推進プログラム(基盤研究)「災害研究枠」を6月に募集、人文社会科学系13件(申請25件)、自然科学系9件(申請16件)が採択されました。

また特定領域型R-GIRO研究プログラムとして、安全・安心領域における研究の支援プログラムの募集も実施し、10月下旬に採択結果が発表される予定です。

### これからの主な取り組み

#### 災害復興支援室 後方支援スタッフ派遣 <第21便(大船渡/漢字探検隊)>

10/10(木)夜京都発・10/15(火)朝京都着  
昨年度に続き、岩手県大船渡市において、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所(京都市)が2007年から全国で展開している体験型講座「漢字探検隊」を開催し、来場された子どもたちや保護者の方々が一緒に楽しく遊ぶことをサポートします。

応用人間科学研究科「東日本・家族応援プロジェクトin多賀城2013」  
10/1(火)～10/27(日)応用人間科学研究科が2011年より10年計画で行っている取り組みで、家族をテーマに漫画パネルの展示、講演会や関連のセミナーが9月の青森県むつ市での開催に続き、実施されます。  
<それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。>

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています。

### 復興支援を通じた国際連携

#### キャンパスアジア・プログラム 「東北スタディツアー」7/31-8/4

日中韓3カ国の学生26名がそれぞれの国に滞在しながら学ぶ「立命館大学キャンパスアジア・プログラム」の学生たちが宮城県石巻市、南三陸町、岩手県大船渡市にて研修を行い、災害復興支援室として訪問先のコーディネートのサポートを実施しました。

南三陸町では、避難所運営のワークショップを体験し、岩手県大船渡市では行政の復興計画や災害時の公務員の役割を学んだ学生たちが、東日本大震災の被害と復興の課題に現地と触れ、メディアを通じ伝えられる情報とのギャップや風評がもたらす影響を各国の立場で考え、活発な意見交換が行なわれました。



#### 立命館大学×淡江大学学生交流フォーラム 「～TRACE2013～in東北」8/3-12

2013年3月、台湾で復興支援、防災・復興の国際連携をテーマに淡江大学・立命館大学学生フォーラムを開催したことを受け、両大学の学生が東北地方を訪ね、自身の目で被害とそこからの復興の現状を見て、今後の支援や国際的な連携のあり方について検討する学生交流企画を実施しました。

企画には、立命館大学生10名と淡江大学生6名が参加し、意見交換に留まることなく両大学学生が被災地域でのボランティアを行なうなど、東日本大震災発生直後から、復興の先にある未来までの足跡に思いを寄せ、触れることで、「わたしたちができること」を考える機会となりました。



### 台風18号豪雨被害に関する 復旧ボランティア

9月に発生した台風18号の豪雨では、京都・滋賀の複数地域で大きな被害が発生したことを受けて、立命館として関連の情報収集と発信と、学生ボランティア募集情報の発信と、学生派遣を検討して参りました。

被害発生以降、びわこ・くさつキャンパスが立地する滋賀県の被害地、高島市でのボランティア活動に学生・教職員を募り、住宅軒下の泥出しや家財の運び出し、室内の拭き掃除等復旧活動を行いました。10月からは大学のボランティアセンター(サービスマンセンター)が引き続き活動に参加する学生を募集しています。



**活動日**  
10月12日(土)、19日(土)、26日(土)  
**活動時間は9:00～15:00(予定)**  
**募集人数** 各日10人まで  
詳しくはサービスマンセンターHPまで

### 編集後記

今回は校友大会にあわせ、特別号としてこれまでの瓦版ダイジェスト号を作成しましたが、いかがでしたでしょうか。災害復興支援室ではこれまで、そしてこれからも継続した支援に取り組んでまいります。引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第20号(特別号)】  
発行人・編集 立命館災害復興支援室  
075-813-8130(総合企画課内)  
311fukko@st.ritsumeai.ac.jp  
http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/20110311/